

週に1回、認知症ケア回診を認知症看護認定看護師や薬剤師、医療ソーシャルワーカーらとチームで全病棟に行っている。対象者は認知症で介護度の高い人や、入院中にせん妄をきたした人などで、主に行動・心理症状へ多面的に対応している。感染症や心不全などの内科の患者さんのほかに、コンスタントに多いのが認知症で施設入所中に転倒・骨折（主に大腿骨近位部骨折や脊椎圧迫骨折）をきたして入院してくる整形外科の患者さんである。また、脊椎疾患の術後にせん妄をきたす人もいる。大腿骨近位部骨折では、かなり高齢で認知症が進行した人でも元の運動機能が保たれていれば、積極的に手術を行っていることが多いようである。一方で、頸椎症や腰部脊柱管狭窄症では、認知症の有無や程度が手術適応の決定にどの程度影響しているのだろうか。

多臓器疾患で認知症も出現している超高齢者が増える中で、種々の身体合併症やせん妄などの行動・心理症状の予防や対応には、他科との密な医療連携や多職種連携によるケアが重要となる。医療の専門化と細分化が進む昨今、超高齢者をトータルに（身体疾患だけでなく認知機能や精神面、さらに生活や社会背景を含めて）診る「総合老年科」的素養が求められる。脊椎脊髄疾患を中心とする学際誌である本誌も、関連する各科の学術面のみでなく、高齢者医療の臨床現場における連携の一助になってくれればと期待している。

さて、本号の特集は「脳脊髄液漏出症—診断治療の最前線」である。このテーマは前回2016年の10号に取り上げられて約9年になるが、この間に経験が蓄積されて、より詳細な病態解析から診断法、個々の病態に応じた治療の実際に至るまで着実な進歩がみられることがよく理解できた。経験豊富な先生方による「最前線」の情報が網羅されており、大変有益な内容になっている。個人的には、中川紀充・小林修一論文と高橋浩一・秋葉洋一論文の中で少し触れられている、脳表ヘモジデリン沈着症、多髄節性筋萎縮症、脊髄ヘルニアといった *duropathies* として包括される病態との関連が知りたいところである。その解明には、おそらく個々の症例についての長期間の経過追跡が必要と思われる。今後に残された課題であろう。

（亀山 隆）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

松山幸弘（編集委員長）
高見俊宏（副編集委員長）
熱田直樹 亀山 隆 金 景成
黒川勝己 下川宣幸 高橋敏行
筑田博隆 永島英樹 中西一義
中村雅也 西田康太郎 原 政人
堀 正明

Vol. 39 No. 2
(2026 年 2 月 25 日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,700円＋税）
（配送料別）

年ぎめ予約購読料36,100円＋税
送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷綱ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：西本・山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2026,

Printed in Japan

3COPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。